主 題：信仰の成長を目指して2 : 従順における成長3**聖書箇所：ピリピ人への手紙 2章14-16節**

ピリピ人への手紙2章14節からです。パウロはピリピの教会の兄弟たちに対して「主に対して従順でありなさい」ということを命じます。「神に従順に従っていきなさい。主の教えに従っていきなさい。主のみこころに従っていきなさい。」とパウロは彼らに命じます。そして、従順は可能であると教えています。それは、神の働き、助けがあるからです。

1. 従順への主の助け 13節
2. 従順への勧め 14節
3. 従順の祝福 15-16節

1. 従順への主の助け 13節

前回、私たちの従順な生き方を主は助けてくださるということを学びました。それだけでなく、従順に従っていくことが信仰者には可能であるということも13節のみことばから見ました。確かに、聖書を見るとお気付きのようにたくさんの命令があります。主のみこころが知らされ、このように生きていきなさい、このように歩んで行きなさいという主の命令が溢れています。その命令を与えてくださる神が私たちに教えることは、あなたはその命令に従って生きていくことができるということです。そのことが13節に記されていました。

1) 「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、」

つまり、神はイエスを信じているあなたの心に働いて、あなたに主のみこころに従って行きたいという思いを与えてくださると言うのです。ですから、私たちがこうしてみことばを聞いているときに、聖書の教えを聞いたときに、その教えに、神のみこころに私は従って行きたいという思いを神があなたに与えてくださると、それがこの13節の初めに記されていたことでした。神はそのように働くのです。だから、あなたが聖書のみことばを聞くときに「神様、私はそのように生きていきたいです」と願うのは、神がそのような働きをあなたのうちに為しておられるからだパウロは教えるのです。

2) 「事を行わせてくださるのです。」

神の働きを見る時に、そのような思いをあなたに抱かせるだけでないのです。13節には続いて「事を行なわせてくださるのです。」と書かれています。ということは、神はあなたにそのように生きていきたいという願いを与えるだけでなく、それを実践させてくださると言うのです。私たちは「主のみこころは必ず実践できる」との確信をもちます。

ですから、このように言うことができます。「私たちクリスチャンは聖書のみことばを通して、主のみこころを知り、主の備えられたみ力によって、そのみこころに従い、その教えを実践するのである。」と。まさに、私たちクリスチャンの生き方をパウロは明確に教えてくれています。

そうすると、神があなたのうちに働き、あなたに願いを与えてくださり、そして、その願いを実践するために必要な力をすべて備えてくださると言われている以上、私たちが「できない」と言うことはあり得ないのです。ですから、この14節からパウロは、あなたが従順に従っていくための注意事項を与えています。

2. 従順への勧め 14節

あなたは一生懸命主に従おうとしているし、そのように歩んでいるから、次の事を注意していなさいとして、パウロはここに注意事項を記しています。14節「すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい。」、確かに、二つのことが書かれています。非常に関連していることです。「つぶやかずに行いなさい。疑わずに行いなさい。」とこのようにパウロは教えるのです。

1) すべてのことをつぶやかずに行なう

「つぶやく」とは「不平を言うこと」です。実は、このことばの意味は「自分たちの指導者を信頼せず、また、謀反を起こさんとして指導者たちに反抗している暴徒が発する不平、不満に満ちたつぶやきの声」と、パークレーはこのように定義します。簡単に言うなら、自分たちの指導者を信頼しないで、そして、反抗したいという思いがいろんな不平や不満をもたらす。それがことばとなって形となって表現されているということです。今からそれを見て行きます。その最たるものは「イスラエルの人たちの歩み」です。それを見た時にこの事が繰り返されて来ています。神がお立てになったモーセに対して

人々は不満を抱いたのです。モーセのリーダーシップに不満を抱いたのです。神の為にしておられることに不満を抱き彼らはつぶやいたと記されています。実は、これは旧約聖書にだけ見られることではありません。主イエス・キリストがある時人々の前でこのように言われました。「わたしがいのちのパンです。」（ヨハネ6：35）と。そのとき人々はつぶやいたのです。イエスはその彼らに対して言われました。43節「互いにつぶやくのはやめなさい。」と、61節でも「しかし、イエスは、弟子たちがこうつぶやいているのを、知っておられ、彼らに言われた。「このことであなたがたはつまづくのか。」と。なぜ、彼らはつぶやいたのか？彼らはイエス・キリストを神だと認めなかったからです。イエスが「わたしはいのちのパンだ」と言われたときに、敬虔なユダヤ人たちであれば、このイエスが何を言ったのかを理解したはずですが。旧約聖書の中で、モーセが神に対して「あなたの名前を教えてください」と尋ねたときに、「わたしはある」とおっしゃった。そこでイエスは「わたしはいのちのパンである」と言われたのです。あのモーセに語った神が「わたしなのだ」ということを明らかにされたのです。ところが、人々はそれを聞いて、彼を心から受け入れることをしませんでした。反ってつぶやいたのです。そんなことはあり得ない、そんなことはおかしいと。ですから、旧約だけでなく新約の時代を見ても人々はつぶやくのです。「つぶやくこと」が正しいことでないことは皆さんご存じです。

「つぶやき」が間違っていることを主は教えておられます。Iペテロ4：9「つぶやかないで、互いに親切にもてなし合いなさい。」、民数記14：27「いつまでこの悪い会衆は、わたしにつぶやいているのか。わたしはイスラエル人が、わたしにつぶやいているつぶやきを、もう聞いている。」、哀歌3：39「生きている人間は、なぜつぶやくのか。自分自身の罪のためにか。②「すべてのことを疑わないで行う」、「つぶやく」、不平不満を言うことです。

2) すべてのことを疑わないで行なう

この「疑わないで」も「反論する、異を唱える」と英語の聖書ではそのように訳しています。ですから、この14節の「つぶやかず、疑わずに行ないなさい。」をギリシャ語の辞書では「不平をならしたり、言い合ったりしないで」と訳します。だから、非常に関連しています。次々に不平を口にするようになると、そこにいろいろな争いが生じて来ます。そのようなことをしてはいけないということがここで命ぜられているのです。少し皆さんと考えてみたいのは、私たちはどんな時につぶやくか？です。

a) 自分の思う通りに物事が進まないとき

そのときに私たちはつぶやきませんか？不平不満を言いませんか？イスラエルの民のことをもう一度思い出してください。イスラエルの民たちはあの紅海を渡って行きました。出エジプト記15章に記されています。考えられないような奇蹟を主がなさったのです。イスラエルの民が紅海の淵に立った時に主はその紅海の海を真っ二つに裂いて、イスラエルの民は乾いた地を渡りました。イスラエル人の後に続いたエジプトの軍隊は紅海の波に吞まれて滅んでしまったのです。そのような奇蹟を彼らは目の当たりにしたのです。そして、彼らは主に対して賛美をささげています。感謝を表わしたのです。その後、彼らは荒野へと向かって行くのですが、三日間、彼らは歩きました。そうすると喉が渴いて来たのです。「水がない」、彼らはやっとマラという所に着きました。そこで水が飲めると思ったら、その水は苦くて飲むことができなかったのです。出エジプト15：22「モーセはイスラエルを葦の海から旅立たせた。彼らはシュルの荒野へ出て行き、三日間、荒野を歩いた。彼らには水が見つからなかった。」、24節「民はモーセにつぶやいて、「私たちは何を飲んだらよいのですか」と言った。」、「民はモーセにつぶやいて」と書かれています。三日前に、あのような大きな奇蹟を目の当たりにしたにも関わらず、水がなくなるとつぶやき始めたのです。私たちも自分の思う通りに物事が進まない「どうして？なぜ？どうして自分ばかり…」とつぶやきませんか？不平、不満を口にしませんか？私たちはここにいてイスラエルを責める資格などありません、私たちも同じことを繰り返しているからです。人間とはそのように罪深く弱い、愚かな者です。

b) 自分には不可能と思うことをするように求められたとき

もう一つ考えられるのは、自分が不可能と思えることをするように求められたとき、自分にはできないと思っていることをやりなさいと言われたときつぶやきませんか？まさに、イスラエルはそのことを経験したのです。民数記13章に書かれています。モーセは12名の斥候を約束の地に送りました。神が与えると言われた約束の地です。それは今のイスラエルですが、そこに送るのです。そして、40日が経ってスパイたちが戻って来ます。彼らはその約束の地がどんなにすばらしい所であったのかという報告をモーセにしました。民数記13：27「彼らはモーセに告げて言った。「私たちは、あなたがお遣わしになった地に行きました。そこにはまことに乳と蜜が流れています。そしてこれがそのくだものです。」、すばらしい果物を持って彼らは帰って来たのです。確かに、そこはすばらしい所です、こんなすばらし

い立派な果物が育っていますと。でも、それで終わらなかったのです。「しかし」と言います。28-29節「しかし、その地に住む民は力強く、その町々は城壁を持ち、非常に大きく、そのうえ、私たちはそこでアナクの子孫を見ました。：29 ネゲブの地方にはアマレク人が住み、山地にはヘテ人、エブス人、エモリ人が住んでおり、海岸とヨルダンの川岸にはカナン人が住んでいます。」とこのような報告をしたときに、みことばは面白いのです。その後、30節「そのとき、カレブがモーゼの前で、民を静めて言った。…」と、つまり、この報告を聞いた時に民の間で何かが起こったのです。だから、彼らを静めなければいけなかったのです。想像できるのは、彼らの間で大変な動揺が起こったのです。「ええっ、そんな所に行くの！」と。しかも、実際に見に行った連中がこんなことを言うのです。31節から「：31 しかし、彼といっしょに上って行った者たちは言った。「私たちはあの民のところに攻め上れない。あの民は私たちより強いから。：32 彼らは探って来た地について、イスラエル人に悪く言いふらして言った。「私たちが行き巡って探った地は、その住民を食い尽くす地だ。私たちがそこで見た民はみな、背の高い者たちだ。：33 そこで、私たちはネフィリム人、ネフィリム人のアナク人を見た。私たちに自分がいなごのように見えたり、彼らにもそう見えたことだろう。14:1 全会衆は大声をあげて叫び、民はその夜、泣き明かした。」。想像がつかず。さあ、我々はこれから約束の地に入っていくことができると、彼らは意気揚々と喜びに溢れていたはずですが、ところが、40日間その約束の地を見て回って来た斥候が、戻って来て報告したことがこうだったのです。12人のうち10人がこのように言います。「だめだ、だめだ！みんな殺されてしまう、約束の地に行くことは不可能だ」と。あとの二人はもちろんカレブとヨシュアですが、彼らは「攻め上ろう」とこのように言いました。30b節「私たちはぜひとも、上って行って、そこを占領しよう。必ずそれができるから。」と、しかし、群衆はこの二人の声に耳を傾けようとしませんでした。彼らは自分たちが向かって行こうとするその地に住む強力な敵を考えた時に「無理だ、不可能だ！」と言って「大声をあげて叫び、民はその夜、泣き明かした。」のです。その後、何が起こったか？14：2-4「イスラエル人はみな、モーセとアロンにつぶやき、全会衆は彼らに言った。「私たちはエジプトの地で死んでいたらよかったのに。できれば、この荒野で死んだほうがましだ。：3 なぜ【主】は、私たちをこの地に導いて来て、剣で倒そうとされるのか。私たちの妻は、さらわれてしまうのに。エジプトに帰ったほうが、私たちにあっては良くはないか。」：4 そして互いに言った。「さあ、私たちは、ひとりのかしらを立ててエジプトに帰ろう。」と。不思議な話です。奴隷としてエジプトにいたときは解放されることを望みました。そして、解放されたらまた文句を言うのです。

自分の思い通りにならないと不満を言うし、そして、自分たちに与えられた課題が余りにも大きすぎて、自分たちにはどうすることもできないと思えるものであると、私たちはそこでもまた不満を言います。「神様、なぜ、こんな所に連れて来たのですか？なぜ、私たちにこんなことをしろと言うのですか？」と、まさにそのようにどうしようもないのが私たちだということがよく分かります。自分の考えることと異なったり、また、自分にとって嬉しくないこと、失望するようなことが起こったときに、悲しいことに、このようなつぶやき、神に対する間違っただけの思いが私たちの心から出て来ます。私たちの心が正しくないからです。パウロは言うのです。「あなたが主に従って行く時に、たとえ、それがどんなことであっても従い続けて行きなさい。神を疑うようなことがあってはいけません。すべてのことをつぶやかず、疑わずに行かないなさい。」と。

今、私たちは見て来ました。神があなたに願いをくださり、そして、その願ったことを実践する力を備えてくださると。これはすべて神がしてくださるみわざです。それに対して私たちが「できない」と言うなら、私たちはこのように言っているのです。「神様、確かに、あなたはそうおっしゃっているけれど、それは私にはできません。」と。不信仰です。神は「できる、わたしが助ける」と言われたのです。「わたしがあなたに力を与えてあげる。わたしが実行するのだ。」と。だから、パウロは言うのです。「あなたが主に従って行こうとしている時に気をつけなければいけないことは、それがどんなことであっても、つぶやいてはいけません。疑いをもってはいけません。主を信頼して主のみこころを行なっていくなさい。」と。なぜ、それが必要なのか？15節から記されています。

3. 従順の祝福 15-16節

1) キリストに似た者へと変えられる : 救いの究極の目的に到達する 15節

15節「それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代の中にあつて傷のない神の子どもとなり、」と、パウロは「もし、あなたがどんな時でも主に従順に従っていくなら、あなたは信仰者として成長する」と言っているのです。あなたはよりキリストに似た者に変えられていくということをパウロはここで言うのです。ここには三つの形容詞がありますが、それらを見ていきます。

(1) 「非難されるところのない者となる」

これは「非難する」ということばの否定語です。ですから、「非難する余地がない、欠点がない」と訳せることばです。確かに、ここで使われている「非難されるところのない」ということばは新約聖書の中に5回出て来ます。それぞれの日本語訳を見ると「落ち度なく、非難されるところのない、責められるところのない」と訳されています。ルカ1：6「ふたりとも、神の御前に正しく、主のすべての戒めと定めを落度なく踏み行っていた。」、ピリピ3：6「その熱心は教会を迫害したほどで、律法による義についてならば非難されるところのない者です。」、Ⅰテサロニケ3：13「また、あなたがたの心を強め、私たちの主イエスがご自分のすべての聖徒とともに再び来られるとき、私たちの父なる神の御前で、聖く、責められるところのない者としてくださいますように。」、ヘブル書8：7では「もしあの初めの契約が欠けのないものであったなら、後のものが必要になる余地はなかったでしょう。」と「欠けのないもの」と訳されています。ですから、先ずパウロが言うことは、あなたがどんな時でも主のみこころに従順に従っていくなら、あなたは人々から非難されるところのない者へと変えられていくということです。

(2) 「純真な者となる」

これも「混ぜる」ということばの否定です。「混ぜりけがない、純真な、金属に不純物がない」、また、「ぶどう酒に水が混入されていない」とそのことを表わすことばです。混ぜり物がない、あなたのうちから不純物が除かれていく、つまり、あなたのうちから罪が除かれていくということです。あなたが主に従順に従っていくなら、あなたはそのような人へと変えられて行くということです。

(3) 「傷のない神の子どもとなる」

このことばが新約聖書の中でどのように使われているでしょう？特に、ヘブル書9：14、Ⅰペテロ1：19を見ると「いけにえ」と関連して使われています。ヘブル9：14「まして、キリストが傷のないご自身を、とこしえの御霊によって神におささげになったその血は、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行いから離れさせ、生ける神に仕える者とすることでしょう。」、Ⅰペテロ1：19「傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。」、皆さんもよくご存じのように、いけにえを神の前にささげるとき、そのいけにえには条件がありました。傷のないもの、最高のものでなければいけなかったのです。ですから、このことばをここで用いることによって、あなた自身が神の前にそのような傷のない者、つまり、神に責められるところのない者、神から非難されるようなところのない者、咎められるところのない者へと変えられていくということです。つまり、15節でパウロが言っていることは、あなたがそのように主のみこころに従順に従い続けていくなら、あなたは責められるところのない、非難されるところのない神の子どもとして成長していくということです。あなたが益々キリストに似た者へと変えられていく、そのような働きを神はあなたのうちに為していかれるのです。

でも、見て来たように条件がありました。もし、あなたが主のみこころに従い続けて行くなら、つぶやくことなく疑うことなくあなたが従って行くなら、神はその働きをあなたのうちに為していくと言うのです。信仰の成長とともにこの世との区別がより鮮明になるのです。そのような人々が必要なのです。なぜなら、今、私たちが住んでいる世は大変な世の中だからです。パウロのことばを借りると「曲がった邪悪な世代の中にあって」とあります。「曲がった」、「邪悪な」ということばが使われていますが、「曲がった」とは「間違っている、不正である、不義」ということばです。新約聖書に4回出て来ます。ペテロもあのペンテコステの時にこのようなメッセージを人々の前で語りました。使徒2：40「ペテロは、このほかにも多くのことばをもって、あかしをし、「この曲がった時代から救われなさい」と言って彼らに勧めた。」と。曲がってしまったのです。正しい真直ぐな道から外れてしまっていて道が曲がってしまったのです。また、この「邪悪」ということばも「腐敗する、墮落する、正しい道から脇道へ入る、背かせる」などの意味を持っています。どちらを見ても神の真理から外れていると言うのです。

今から約二千年前、パウロはこのように言ったのです。今の社会を見ると、みな神の真理から外れてしまっている。人々は神の前に正しく生きようとしていない。人々は自分の目に正しいと思うこと、自分のしたいことをして生きています。この社会は神の真理から外れてしまっている。曲がった邪悪な世の中であると言うのです。イエスはそのことを嘆かれてこのように言われました。マタイ17：17「…「ああ、不信仰な、曲がった今の世だ。」と。その他にも、ルカ9：41「イエスは答えて言われた。「ああ、不信仰な、曲がった今の世だ。いつまで、あなたがたといっしょにいて、あなたがたにがまんしていなければならないのでしょうか。あなたの子をここに連れて来なさい。」、使徒13：10「ああ、あらゆる偽りとよこしまに満ちた者、悪魔の子、すべての正義の敵。おまえは、主のまっすぐな道を曲げることをやめないのか。」、使徒20：30「あなたがた自身の中からも、いろいろな曲がったことを語って、弟子たちを自分のほうに引き込もうとする者たちが起こるでしょう。」と、だれも神の前に何が正しく何が神に喜ばれることな

のか考えようとしません。世の中が私たちに提供し続けるメッセージは神が憎んでおられるメッセージです。自分を楽しませればそれで良い、自分のやりたいことをやればそれで良い、人に迷惑をかけなければそれで良い、好きなことをやっていきましょうと言います。しかし、神はそのようなことに対して厳しく戒めを与えています。でも、人々は自分の思うように生きていく、だから、曲がった邪悪な世代なのです。

そのような中であって、信仰者であるあなたに対して神が言われることは「確かに、世の中は大変であるし、世の中はだんだんひどくなっていくけれど、その中であってわたしがあなたに望むことは、時代がどうなろうとわたしのみこころに従う信仰者でありなさい。」です。このような罪の世であって、主は信仰者であるあなたを変えていけます。

2) その理由 16 a 節

なぜ、そのことが必要なのでしょう？ 16節を見てください。「いのちのことばをしっかりと握って、彼らの間で世の光として輝くためです。」パウロがこのように「神のこころに従い続けて行きなさい」と教え続けるその理由は、その時にあなたは世の光としてこの邪悪な罪の世の中であって輝くからです。

「いのちのことばをしっかりと握って」と言います。「いのちのことば」とは「いのちを与えるみことば」のことです。つまり、「福音」です。その福音をまずあなたがしっかりと握って、あなたがしっかりと信じて、そうしてあなたが神のことばに従って行くなれば、主はあなたをこの世であって世の光として用いてくださるのです。暗やみの中にいる人々に、希望のない人々に希望を与える存在として、救いに関する希望を全くもっていない絶望の中にいる人々に救いの希望をもたらす人として、神は光としてあなたを使おうと言われるのです。神はあなたにそのようなことを計画しておられ、そのようにあなたを用いようとしてくださっているのです。

信仰者の皆さん、もし、あなたが遣わされているその場所であって世の光として用いられていくなれば、少なくとも、もっと多くの人たちがこのキリストにある希望を知ることになるでしょう。私たち信仰者が覚えなければいけないことは、そのような目的のために神はあなたを救ってくださり、そして、あなたが成長することを願い、そして、あなたにみことばをくださり、あなたにすべての助けを与えてそれを実践することが出来るような者へとあなたを整えてくださっているということです。必要なことは、あなたはのみことばを信じて、そして、主に従って出て行くことです。主のみことばの実践に励んでいくことです。

3) 主からの報い 16 b 節

パウロはそのことを話した上で、最後に、なぜ、それが必要なのか、なぜ、それが大切なのか、そのことを言っています。16節の後半には「そうすれば、」とあります。結果のことです。もし、あなたが主のみこころに従順に従い続けていくなればあなたは世の光として輝き続けていき、このような結果があなたに約束されていると言うのです。「そうすれば、私は、自分の努力したことがむだではなく、苦勞したこともむだでなかったことを、キリストの日に誇ることができます。」。そのように歩んだあなたには神からのすばらしい報いがあると言うのです。

◎その報いとは？

(1) 自分の努力したことが無駄でなかったこと

「努力」とは「走る」ということばが使われています。パウロは確かにそのようなことばをもって信仰生活を表わしました。「信仰の馳せ場を走り」とそのことばがここで使われています。ですから、彼は、あなたが主に忠実に従い続けて来たこと、信仰生活を正しく歩み、また、走り続けて来たこと、あなたが福音宣教のために一生懸命そのわざを為し走り続けて来たこと、それは決して無駄ではなかったことを知ると言うのです。一生懸命主のために歩んでおられる皆さん、みことばを愛し、主を愛し、そのみこころに従って生きている皆さん、このような約束を主はあなたに与えてくださったのです。あなたの信仰の歩みにしてそれは決して無駄ではなかった。主のために為したすべてのことは決して無駄ではなかったと、そのことをあなたは知ることになると言うのです。

(2) 苦勞したことも無駄ではなかったこと

もう一つ見てください。「苦勞した」とあります。「苦勞」とは「大変な苦しみ」のことです。信仰生活の中であって確かにいろんな苦しみを経験することがあります。パウロがⅡテモテ3：12で「確かに、キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。」と言うように、「みな」、例外なく迫害を受けるのです。まして、このように罪に染まった世の中であってあなたが主の前に正しく生きようとするなら、いろいろな摩擦を経験します。しかし、そのような迫害の中であって、それが肉体的であろうと精神的であろうと何であろうと、その中であなたが主に従い続けていくときに、主が

あなたに言われることは「その人生は無駄ではなかったことをわたしが証明する」ということです。「あなたがわたしの前に立ってわたしがあなたの働きに褒美を与えるときに、その働きが決して無駄ではなかったことをあなたも知るし、人々も知る。」と。

だから、パウロはⅠコリント15：58でこのように言っています。「ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあってむだでないことを知っているのですから。」と。自分のために生きる人生は無駄です。そこに神の祝福はありません。でも、神のために生きる人生は祝福が報いが約束されているのです。パウロはこのピリピの人たちに対して言います。「これまで歩いて来たように継続して主のみこころに忠実に生きていきなさい。そのようにあなたが生きていくなら、この罪の世の中であって、あなたは神の光として主に用いられるだけでなく、その人生を主は大いに祝してくださる。」と。そのような日がやって来るのです、皆さん。あなたの信仰の歩みを主は覚えておられ、それに対して相応しい報いをくださるのです。パウロはそのことをこのピリピの人々に教えるのです。

そして、「キリストの日に誇ることが出来ます。」と言います。イエス・キリストの前に立つときのことです。キリストのさばきの座のことです。そこで私たちは働きの評価をいただきます。神から褒美をいただくそのときにあなたは誇ることができると言うのです。「このように歩めて良かった。主に従って来ることができて良かった。」と。そして当然、私たちはそのときに自分を褒めるのではなく、「神さま、すべてはあなたのわざです。なぜなら、あなたがそのように従って行きたいという思いをくださり、そして、それを実践させていただいたのもあなただからです。あなたの御名が誉め称えられますように。」と、そうして私たちはこの栄光の主を誉め称えるでしょう。パウロはそのことをしっかり覚えて「今日、わたしに従い続けていきなさい」と、そのように主からのメッセージを伝えるのです。

パウロは信仰者たちに忠実であり続けることを勧めました。彼らを励まし続けました。でも、このメッセージを語ったときにパウロはどこにいたのか？パウロは牢にいました。捕えられていたのです。なぜ、彼が捕えられていたのか？その理由は信仰ゆえです。神に従ったゆえに彼は捕えられたのです。しかし、そのような状況にあってもパウロは喜びを持って生きていました。このピリピ2：17には、パウロ自身が死を覚悟していたことが記されています。「たとい私が、あなたがたの信仰の供え物と礼拝とともに、注ぎの供え物となっても、私は喜びます。あなたがたすべてとともに喜びます。」と。この「注ぎの供え物」とは「死」を意味しています。ですから、パウロが言っていることは「今、私は捕えられている。ひょっとしたらこの後私は殺されるかもしれない。でも、私は喜んでいる。」です。自由の身の者が、何の迫害のない者が喜んでいることは難しくありません。でも、信仰ゆえに捕えられ、ひょっとしたら明日自分の首がはねられるかもしれないという、そのような人がその中でも「私は喜んでいる」と言うのです。世の中のものが与える喜びとは違うことがはっきりします。

なぜ、パウロはこのような喜びをもって歩んでいたのでしょうか？答えは彼のことばにありました。主のみこころに従い続けて行くことです。なぜ、主のみこころに従い続けて行くとき、主の教えに従い続けて行くときに、私たちは喜びをもつのですか？喜びの源である神が喜んでおられるからです。主が喜んでおられるから、主はあなたにその喜びを与え続けてくださるのです。私たちに必要なことは、パウロが教えてくれているように「主のみこころに従って生きなさい。主が教えること、主の教えに従って生きなさい。この聖書のみことばに従い続けていきなさい。」です。そのときに私たちは、先程見て来たように、キリストのさばきの座で、天にあってすばらしい祝福をいただくだけでなく、今、この地上にいても私たちは物によって得ることのできない喜びをもって歩むことができるのです。そのような祝福を主は約束して下さったのです。

自分の思い通りに一生懸命我々は生きて来ました。でも、その人生が私たちにもたらした喜びは一時的であり一過性のものでした。主はこのように永遠に続く喜びを今私たちに与えてくださるのです。ピリピの兄弟たちも大変な困難の中を生きていました。しかし、この17節のみことばが教えているように「あなたがたの信仰の供え物と礼拝とともに」と、つまり、彼らもパウロと同じように、主をしっかりと仰ぎ見て、主のみことばに従い続けている者だったのです。パウロは言います。「これからそのような生きてください。これからそのような歩み続けてください。なぜなら、主のみこころに従う生き方こそ、価値ある悔いを残さない人生だから。そして、何よりもそれこそ主が喜ばれる人生だから。」と。

病のゆえに瞬きしかできなくなった「瞬きの詩人」水野源三さんがいらっしやいます。ただ寝たきりで、瞬きでしか他の人とコミュニケーションが取れなかった水野さんがこんな詩を書いています。「主があなたを呼んでいるから、主があなたを呼んでいるから、何も言い訳言わないで、御跡に従い行けよ。主があなたを呼んでいるから、主があなたを呼んでいるから、すべてを捨てて、勇みて従い行けよ。主

があなたを呼んでいるから、主があなたを呼んでいるから、行き先は分からなくても、どこにでも従い行けよ。」と。彼はまさにこの大切な真理を理解しておられ、そして、そのように生きたのです。パウロが私たちに教えることも同じことです。神のおことばに従い続けていきなさいと、神はそのことをあなたに望んでおられるのです。つぶやくのではなく、逆らうのではなく、神の言われたことに喜んで心から従うことによって…。神は私たちを用いてくださるのですから、どうぞ、そのように歩んで、そして、キリストのすばらしいこの福音の光を輝かせ続けていくことです。このすばらしい救いを人々の前で輝かせ続けることです。そのためにあなたは救われ、そして、そのために主はあなたを用いようとしてくださっています。忠実に歩み続けてください。

《考えましょう》

1. 「つぶやく」ことを、主が喜ばれないのはどうしてでしょう？
2. 「つぶやき」の原因は何だと思えますか？
3. 主に従順に従う者に約束された祝福を挙げてください。
4. 従順に従うことは可能なのでしょうか？もしそうなら、その理由を挙げてください。